

# 「マイクロプラスチック・ストーリー～

## ぼくらが作る2050年」上映会を開催して

7月23日、立川市女性総合センター・アイムとオンラインで、標記の上映会を開催しました。

この映画は、アメリカの非営利団体カフェテリア・カルチャーがプラスチック削減の環境教育プログラムをドキュメントしたもので、ニューヨークのブルックリンの小学生たちが、プラスチック汚染問題の根っこは何かを自分たちの視点で問いただし、解決に向かってアクションを広げていく2年を追った長編ドキュメンタリーです。

映画会に参加してくださった方々の感想文の一部をご紹介します。(島崎)

\*マイクロプラスチックの問題のこともですが、長い時間をかけて子供たちが授業の一つとしてこの問題に取り組む姿に心を打たれました。自分たちにできることがプラスチックごみを減らすことにとどまらず社会の仕組みを変えようというところまでたどり着いたという教育のあり方に、日本の学校教育に今重要なことが描かれているような気づきがありました。また、小学校のある地域が経済的にも社会的にも恵まれていないような印象もありましたが、そこにも希望を感じました。(E.Wさん)

\*化学繊維で作られた洋服が洗濯される度にマイクロファイバーを海に流しているとは知りませんでした。作る側も、使用する側も、製品がどのような過程で作られ、使い終わった後でどのように処理されるかを知らないというのはおかしいことだと感じました。イラストや切り絵を用いた映像はすごく分かりやすく、理解のしやすさや発信の仕方の重要性を感じました。また、声優の方々もプラスチック問題に関心がある方々を起用することで感情が乗っていて、映像作品に入り込みやすかったです。(E.Mさん)

\*環境問題をわかりやすくするためのアニメ、切り絵、手書きのキャプションの併用が素晴らしい。市民科学者に子供たちがなって、科学的に分析している事が大人への啓蒙になっている。市当局、市議会が日本と比べて民主的な対応ができている。子供達の市役所前のアピールに市長が参加（これは偶然とのこと）も大成功。ゴミゼロ宣言都市ニューヨーク市と連動できたのも全市的運動になる。プラスチックゼロの日を設けて、何がプラスチックか見える化に成功。字幕でなく数百人の声優の吹き替えが驚異的な発想。主権者として投票権のない子供達が社会変革できる事、方法を知らせた。(K.Hさん)

\*感動しました。子どもたちからこんなにパワーと勇気をもらうとは！私達も明日から行動します。この映画はぜひ世界中のみんなに観てほしい。このパワーが反核、平和へとつながることを切に願います。(M.Hさん)

